

秋田県生涯学習・社会教育研究大会 実施レポート

日時：令和6年11月12日（火） 参加者：91名（うち市町村から52名）
会場：秋田県生涯学習センター 講堂

テーマ 人づくり・つながりづくり・地域づくりの好循環を目指して

～ゆるやかなネットワークによる社会教育の充実～

午前【講義・演習】

NPO法人はちのへ未来ネット代表理事の平間 恵美氏が「つながりづくりで地域づくり！～すべての世代が共に学び、思いを共有できる地域づくり」と題して話されました。

はじめに、はちのへ未来ネットは、「教育」「福祉」の垣根を越えて、横のつながりをつくることを目的に立ち上げたことを説明され、活動拠点である「こどもはっち」の子育てサークルなどで行われている様々な活動について紹介されました。障害をもつ子どもの保護者からの声を反映させて学びの場をつくったり、高校生の放課後や週末の居場所づくりや「将来のママ・パパ」としての体験をする場をつくったりするなど、様々な体験の場づくりについて説明されました。それらの目標は、参加した親子や高校生が、その後に住んでいる地域で行われる様々な行事等に参加する際のハードルを下げたり、たくさんの人々と関わったりすることであることが分かりました。

最後に、社会福祉協議会との連携や公民館を核とした生涯学習・社会教育事業との連携など、地域の中では福祉と教育に垣根がないことを説明されました。そして、教育や福祉の垣根を越えて大人が手をつなぎ、その「ネットワークの力」で子どもと親の育ちを応援する「子育てから地域をつくる」を進めていくことが、幸せに暮らせる地域づくりを実現していく鍵であると締めくくられました。



【参加者アンケートより】（抜粋）

- ・業務の参考にもなったが、それ以上に一人の人間、一人の社会人として生き方の参考となりました。すばらしいお話を聞くことができて感激しました。
- ・自分事として捉えられる人づくりをされていることに感銘を受けました。実践を続けていらっしゃるみなさんを支えられる行政でありたいと思いました。



午後①【講義】

第24回日本ボッチャ選手権大会出場選手であり、車椅子ユーザーでもある齊藤 悠人氏が「誰もが『当たり前』を享受できる社会へ」と題して話されました。はじめに、ボッチャ競技がもつ魅力について、シンプルなルールや投球法など、競技に「多様性」や「参加しているという実感」を感じることでであると説明されました。

また、車椅子ユーザーとして感じるバリア（社会的障壁）について述べられ、観光地やライブ、スポーツ観戦など健常者と同様に楽しみたいことがあっても、物理的・心理的なバリアによって、車椅子ユーザーには選択肢が限られることをお話されました。その上で、多数派である健常者と少数派である車椅子ユーザーの数が、もし逆になったら、どうなるのかと会場に投げかけ、「ボーダレス（自分とは違う存在や考え方があっても当たり前）の意識をもつことができたらいいいですね」と結び、ご自身のお話が『誰かにとって少しでも「こころの障壁」を和らげるきっかけとなっていきたい』とまとめました。

午後②【実践発表・意見交流】

当センター副主幹（兼）チームリーダー 柏木 睦が『「障害者の生涯学習」ははじめの一步～社会的包摂への一步を踏み出すために～』と題して発表しました。「障害者の生涯学習」を進める際、参加者に必要感のある「防災講座」、障害の有無にかかわらず一緒に楽しめる「スポーツ講座」、行動変容につながりやすい話合いの手法である「熟議」の3つのコンテンツを紹介しました。「場の大きさや人数にこだわらない」など、進める際に気をつけることなども話され、参加者は熱心に耳を傾けていました。

つづいて、参加者同士の意見交流を行いました。引き続き柏木がファシリテーターを務め、話合いを行いました。参加者同士、様々な職種の方と活発に話し合わせ、多くの考えを知るきっかけとなったようです。休憩時間などには、会場の後方等に設置された体験ブースで、和やかな雰囲気の中で体験する姿が見られ、有意義な交流ができました。



【参加者アンケートより】（抜粋）

- ・齊藤さんのすごくまっすぐな美しい生き方を感じることができました。時に「合理的配慮」「心の障壁」の言葉に共生の本質的な意味を考えさせられました。
- ・齊藤さんの一言一言にとても胸が熱くなりました。私たちが目指すボーダレスな社会、誰にとっても暮らしやすい社会とは何かを考えさせられました。
- ・障害者の生涯学習についてなんとなくが糸口が見えてきました。とても勉強になりました。気負わずできることを継続的にやればいんだと勇気をもらえました。